

ブログ「寝ても覚めても学校のこと」 2023-01-27 より

宿題のあり方については、各校園、各教員、各家庭によって、それぞれ考え方が異なるかもしれませんが。そんな宿題について、**とある工夫をされている実例**が掲載されていたので、ご紹介します。

日経新聞より。www.nikkei.com (有料会員限定記事となっております。ご了承ください)

この記事は**岐阜市で公立小学校の校長を務めていらっしゃる、藤田忠久さんからのご寄稿**です。

個に応じた学びの実現、教員の働き方改革などを背景に、実際に宿題の見直しをされたそうです。まずはその呼び名を変えたそうで、この小学校では本年度から「宿題」という言葉は使わず、「家庭学習」と呼んでおられます。そのうえで、「家庭学習の手引き」をつくり、家庭に配布。学年ごとの学習の目標などを示し、画一的な一律の課題を出すことを避け、児童一人ひとりが「自分の学習」に取り組むよう仕向けておられます。

家庭学習の主体は児童本人や保護者である。各家庭で考えた塾や習い事も家庭学習の一つと捉えてよい。個人用タブレット端末と、岐阜市教育委員会が導入した学習支援ソフトや算数のデジタル教材も活用できる。

上記引用の冒頭、家庭学習の主体は「児童本人と保護者」と言い切っておられます。ここが重要なポイントだと感じました。宿題は学校発信となりますが、家庭学習はまさに家庭が主軸。そう考えるだけで、宿題の意味付けは変わってくるように思います。

「勉強イコール座学」というイメージにとらわれないよう、授業に関する内容だけでなく児童の興味・関心に基づく調査や観察、夢や目標につながるような実技の練習なども家庭学習の例に挙げた。

「体験活動は対話や記録等の言語化によって学びへと発展(する)」とも付記し、メモを残すことなどで体験を自分らしい学習に発展させる道筋も示した。

宿題ではなく家庭学習と捉えることによって、その幅も当然広がります。宿題であれば、各教員が自らの担当科目に縛られがちのところ、その弊害も防げそうな気がします。藤田校長が宿題の見直しに踏み切った**第一の理由は、社会の急激な変化を乗り越え、未来を切り開いていくために、その学力基盤として「自ら進んで学ぶ力」を養うことが大切、と考えたことにある**そうです。

そこに加えて、文部科学省が2022年2月に出した改訂版「働き方改革事例集」の中で、「家庭学習を自主的な取り組みを中心にして目的にあった最小限の量としたり、量より質を重視する出し方に改善したりすることで1日20分以上の業務時間の削減ができる」と例示されており、教員の業務軽減にも資することがその背中を押したようです。

働き方改革は勤務時間の削減より、教員が本来すべきことをできるようにするのが目標だろう。その観点で担任業務を見直すなら、担任は宿題のノートより目の前の子どもに向き合うべきだ。子どもとの対話・協働を通じて児童理解を深めることこそ必要だ。

さて、貴校園でも宿題について議論されていらっしゃるのでしょうか。ひよっとすると、こういった工夫をしてみたい、という声は以前よりも多く上がるようになっていっているかもしれませんね。ただ、実際にこれまでと変化させるとなった場合、大きなハードルは「各家庭の受け止め」ではないでしょうか。弊社が代行する学校評価アンケート等の集計結果の中では、まだまだ「もっと宿題を出してほしい」といった保護者の声も少なからず見られます。

要するに、家庭の教育力が落ちてしまっていて、学校に頼らざるを得ないケースが多くあるということでしょう。その意味で、今回の岐阜小学校の例は参考になります。学年ごと、あるいは個人ごとの目標設定により、自ら課題を見つけられる力を付ける、そのためのサポートのみを学校が行う、という形はどの校園においても実践可能なのではないのでしょうか。ぜひともご検討いただければと思います。

新教育実践道場「がるべる」（東京都の公立小学校教員が主宰する勉強会）

「学校をもっと元気にする47の熟議（東洋館出版）」の一節に「学校現場の当たり前を見直そう」と言う提言があり、強烈に私の目に留まりました。「特に問題はないのだけれど、特に効果的でもない。問題がないから続けてしまっている。」私たちの周りには、こんなことがたくさんあるのではないのでしょうか。この会のキーワードは、つながることにあります。信頼できる仲間がつながっていくことで、新しい絆が生まれます。そして、誰もが多くのの人から気軽に学べることが大切だと思うのです。そこで、この言葉の語尾をとって「がるべる」と名付けました。

『新』 わたしたちの会は、今までにない新しい発想、新しい運営の仕方を目指します。

『教育』 対象は、伸びたい、学びたいと願っている先生方です。わたしたちは、教えてだけでなく、育てていくことを目標としています。

『実践道場』 たくさんの実践から学び、同じ志の者が集まり、技を磨いていく道場的な要素を含んでいます。

この主宰者のブログ

日々熱感・31日 1月 2023 No 弐-675 宿題・家庭学習を考える 4

1月も最終日。1カ月が経ちました。あっという間ですね。

今日は、S先生からメールをいただき、その中に「家庭学習」の話題があったので、1月17日(火)の日本経済新聞の「宿題を見直す」の記事を思い出しました。家庭学習については、No350(2019年6月11日)で「母親の家庭学習とのかかわり」を話題にしました。厚生労働省の「21世紀出生児縦断調査」(2018年5月)で、母親が家庭で子どもの学習に関わっているほど、子どもの学校外での勉強時間は長い傾向がみられました。子ども達の家庭学習の時間(塾の時間も含む)は、30分から1時間未満が多く、次に1時間から2時間未満が多いことも分かりました。

No720(2020年6月15日)で再び「宿題を考える」を話題にしました。バンダイの「小学生の宿題に関する意識調査」(2019年12月)では、「毎日宿題がある」(83.8%)、「宿題はない」(0%)でした。

- ・好きな宿題も嫌いな宿題も同じで、1位「算数」、2位「漢字」3位「音読」
- ・宿題に取り組む時間は放課後(90%)、場所は自宅のリビング・ダイニング(74.2%)
- ・宿題の相談相手はどの教科も1位は母親、子どもの自主性に任せている(51.3%)
- ・親が考える宿題の意義の1位は、勉強する習慣を身につけさせる(46.7%)

No 弐-515(2022年8月24日)でも再び宿題・家庭学習を話題にしました。精神科医で発達障害に詳しい本田秀夫先生の言葉を取り上げました。「私はそもそも児童や生徒全員に宿題を出すことは意味がないと思っています。勉強が好きな子は、宿題がなくても自分から勉強します。勉強が嫌いな子は、宿題が負担で勉強がさらに嫌いになります。宿題が子どもの役に立つことなど、ないのです。宿題は百害あって一利なし。私はそう考えています」

日本経済新聞の「宿題を見直す」の記事は、2022年度から一律の宿題をやめた岐阜小学校の藤田忠久校長先生の寄稿でした。

★家庭学習への期待

- ・宿題の見直しを踏み切ったのは、第一に社会の急激な変化を乗り越え、未来を切り開いていくためには、その学力基盤として「自ら進んで学ぶ力」を養うことが大切だと考えた。
- ・この力は授業だけでなく、家庭の学習でも培いたい。
- ・家庭で時間を決め、自分から学習することが当たり前になれば、学習効果が高まり、学びに向かう姿勢も育まれる。
- ・自分で課題をもって取り組むことは目的に合った学び方や各教科の「見方・考え方」を向上させ、一人ひとりの可能性を広げることにつながる。

★取り組みの実際

- ・児童がやらされていると思いがちな「宿題」という言葉は使わず、「家庭学習」と呼ぶ。
- ・「家庭学習の手引き」をつくり、家庭に配布。

◎家庭学習の手引き

- ・1～2年(約30分) 目標「家で勉強する習慣を身につける」漢字・計算ドリル、音読カードなど
 - ・3～4年(約45分) 目標「自主性と持続力をつける」算数の練習問題、教科書の要点のまとめなど
 - ・5～6年(約60分) 目標「課題設定力と持続力をつける」授業の予・復習、自分の関心があることについて調べるなど
- ・学年ごとの学習の目標などを示したうえで画一的な一律の課題を出すことは避け、児童一人ひとりが「自分の学習」に取り組むことが目標。
 - ・各家庭で考えた塾や習い事も家庭学習の一つと捉えてよい。
 - ・個人用タブレット端末、学習支援ソフト、算数のデジタル教材も活用できる。
 - ・「勉強＝座学」というイメージにとらわれないようにする。
 - ・授業に関する内容だけでなく、児童の興味・関心に基づく調査や観察、夢や目標につながるような実技の練習なども家庭学習の例として挙げる。
 - ・「体験活動は対話や記録等の言語化によって学びへと発展」とも付記し、メモを残すことなどで体験を自分らしい学習に発展する道筋も示す。
- ★教員の意識改革
- ・担任は宿題のノートより目の前の子どもに向き合うべき。
 - ・子どもとの対話・協働を通じて児童理解を深めることこそ必要。
 - ・子どもと校庭遊びをしながら仲間関係を見たり、一人ひとりの社会性を感じ取ったりすることに価値を見出すべき。
 - ・「宿題をやってこない子」ではなく「学習内容が定着していない子」に声をかけて対策を講じるのが大切。
- ★保護者へ（最新の学校便りで次のように投げかけた）
- 「担任から子どもたちに『授業進度や家庭学習の内容、方法を親に相談したりすることは子どもの責任！』と指導しました。どうか親子の対話を大切に、我が子を見守り、見届けることを保護者の責務と認識して家庭学習にも取り組んでいただきたいと思います」

いかがですか？この校長先生とは気が合いそうです。私が校長だったら、同じことをしたような気がします。